

松本清張「数の風景」とともに楽しむ南部町の風景

松本清張の推理小説「数の風景」に登場する「霊仙寺」を探すツアーが11月9日、南部町読書まつりの一環として行なわれました。このツアーは「霊仙寺」のモデルを推理する作文コンテストの応募者が町内を巡り自分の推理を発表しあうというもの。



雲光寺を訪れる参加者

ツアーには鳥取市や島根県からの参加者を含め、一次審査を通過した10組11名が参加。作品では「霊仙寺」が「鳥取県西伯郡I町」の「禅寺」となっていることから、旧会見町内の大安寺、龍門寺（天萬）、雲光寺（御内谷）を訪問。住職さんや南部町ふるさとガイドの会のガイドさんの説明を聞きました。昼食は小説に出てくる山菜料理を参考にしたメニューを緑水園で味わいました。

午後からは、町立図書館に舞台を移し、最初に参加者のみなさんが推理を発表した後、北九州市立松本清張記念館学芸員の柳原暁子さんに「松本清張と図書館」と題してご講演を頂きました。柳原さんは清張が貧しい生活を送りながら図書館や古本屋さんでむさぼるように小説を読んだエピソードなどを紹介。読書のすばらしさをうたったえられました。推理発表では作中の情景描写だけではなく、清張の技法にも着目した推理が展開され、参加者全員が熱弁を振りました。審査の結果、最優秀賞には森田守さん（米子市）が選ばれました。その他の受賞者は次のとおりです。優秀賞は平野武志さん（伯耆町）、審査員特別賞は加藤定さん（南部町）、同じく佐伯一二美さん（南部町）でした。



講演する柳原さん

町内の自然や文化にふれた

11月1日南部町教育の日

初めての南部町教育の日となった、今年11月1日。絶好の秋日和の中、町内の児童生徒、保護者、地域の人など約1200人が「ふるさと・ふれあい・学びいウオーク」に参加しました。このウオークは町内を巡って地域のことを知ろうと企画され、4つのコースが用意されました。

参加者は、出発前にボランティアガイドの岡田昌孫さん、門脇威さんから歴史や文化、史跡の説明を受け、コースではクイズや川柳を楽しみました。さいはく鉄人コース（約20km）に参加した方は「とても気持ちよかったです。ぜひ来年も参加したい」と感想を話されました。



法勝寺のことにくわしくなったよ